



Title	高周波線形加速器を用いた自由電子レーザーの研究
Author(s)	浅川, 誠
Citation	大阪大学, 1995, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/39129
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	あさ 浅 川 まこと 誠
博士の専攻分野の名称	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	第 1 1 8 9 0 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 7 年 3 月 23 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 工学研究科電磁エネルギー工学専攻
学 位 論 文 名	高周波線形加速器を用いた自由電子レーザーの研究
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 三間 圀興 教 授 磯山 悟朗 教 授 青木 亮三 教 授 権田 俊一 教 授 中井 貞雄 教 授 桂 正弘 教 授 中塚 正大 教 授 西川 雅弘 教 授 井澤 靖和 教 授 西原 功修

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は波長 $10\mu\text{m}$ からミリ波までの広帯域で且つ低エネルギー電子ビームを用いたコンパクトな自由電子レーザー (Free Electron Laser : FEL) の実現のための要素技術に関する研究を行った結果をまとめたもので、本文 6 章より構成されている。

第 1 章は緒論で、低エネルギー電子ビームを使用したコンパクト FEL の重要性についてまとめ、本研究の目的と意義を明らかにしている。

第 2 章では、自由電子レーザーの原理について述べ、小信号利得と電子ビームエネルギー、及び規格化輝度との関係からコンパクト FEL の実現に必要な開発課題を明らかにしている。

第 3 章では、高輝度電子ビーム源としての光陰極の開発について述べ、高勾配加速の可能な S バンド高周波電子銃の新しい光陰極として、高い耐アーク特性を持つ六ホウ化ランタン、およびタングステン陰極を開発し、量子効率およびエミッタンスの陰極温度依存性を評価し、陰極を加熱することで電子ビーム発生時の規格化輝度を $10^{14}\text{A}/\text{m}^2/\text{rad}^2$ 以上に増大することに成功している。また、開発した光陰極と組み合わせた高周波電子銃の動特性に関する研究を行い、広帯域コンパクト FEL に必要な規格化輝度 $10^{14}\text{A}/\text{m}^2/\text{rad}^2$ 以上の電子ビームの発生について述べている。

第 4 章では、遠赤外からミリ波帯での FEL 発振を実現するためのコヒーレント放射光を利用した新方式の FEL の研究について述べ、小信号利得過程を必要とせず、通常の FEL よりも立上り時間の短い高速 FEL 発振を実現している。また、発振が通常の FEL 共鳴条件だけでなく群速度共鳴条件を同時に満たす波長で起こることを明らかにしている。

第 5 章では、FEL 高調波利得を改善するために、ウィグラー磁場の高調波磁場成分を増加したウィグラーについて FEL の動作解析を行い、FEL 高調波利得の改善を実現している。また、高調波ウィグラーを試作し、3 倍高調波強度が通常のウィグラーを使用した場合の 4 倍にまで強調されることを実験的に明らかにし、高周波ウィグラーの有効性を実証している。

第 6 章では、本研究で得られた主要な成果を要約するとともに、本研究の総括を行っている。

論文審査の結果の要旨

遠赤外から赤外にわたる発振波長領域における自由電子レーザー（FEL）装置をよりコンパクトにすることは、FELの実用化にとって重要な研究課題である。本論文は、自由電子レーザーのコンパクト化のための基礎的な研究として、高周波線形加速器のための高輝度電子ビーム源の開発、ミリ波帯での新しい方式によるFEL発振の基礎研究、および高調波ウィグラーの設計・試作を行った結果についてまとめたもので、主な成果は以下の様に集約できる。

- (1) 高周波線形加速器のための高輝度電子ビーム源として光電陰極の開発を行い、高い耐アーク特性を持つ六ホウ化ランタンおよびタングステン陰極について、量子効率および電子ビームのエミッタンスの陰極温度依存が明らかにされている。その結果、規格化輝度 $10^{11} \text{ A/m}^2/\text{rad}^2$ に達する光電子の発生に成功し、Sバンド高周波線形加速器に応用することにより、コンパクトFEL発振の要件となる高い規格化輝度の高エネルギー電子ビームを得ている。
- (2) 遠赤外からミリ波帯での速い立上りのFEL発振を実現するため、コヒーレント放射光を利用した新方式自由電子レーザーに関する発振の基礎研究が行われている。その結果、小信号利得過程を必要としない、立上り時間の短いFEL発振の実現に成功している。また、遠赤外域の発振がFEL共鳴条件だけでなく、群速度共鳴条件を同時に満たす波長で起こることを明らかにしている。
- (3) 発振の短波長化のため、高調波発振用ウィグラーを用いるFEL発振の動作解析を行い、高い高調波FEL利得が得られることを明らかにしている。

以上のように、本論文は、レーザー及び加速器分野で研究対象となる、高周波線形加速器の高精度化や新しいFEL発振方式に関する研究成果をあげ、自由電子レーザーのコンパクト化のための基礎的知見を与えており、レーザー工学の発展と加速器の高精度化に寄与するところが大きい。よって、本論文は博士論文として価値あるものと認める。